

協賛企業



北海道地図株式会社



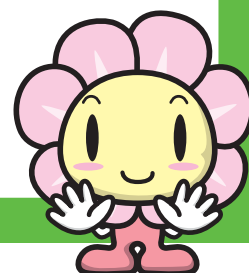
SAPPORO

北海道の翼

AIR DO

様似建設協会

様似ロータリークラブ



サマージャンボ宝くじの収益金は、市町村の明るく
住みよいまちづくりに活用されています。



その先の、道へ。北海道
Hokkaido. Expanding Horizons.

第9回日本ジオパーク全国大会アポイ岳（北海道様似町）大会 実行委員会
—事務局—

〒058-8501 北海道様似郡様似町大通1丁目21番地 様似町役場商工観光課内

Tel: 0146-36-2120 Fax: 0146-36-2662

Email: apoi.geopark@samani.jp

第9回日本ジオパーク全国大会

アポイ岳（北海道様似町）大会



2018.10/6^土～8^日 報告書



大会公式ホームページ

検索 アポイ岳ジオパーク全国大会



このシンポジウムは全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施したものです

目次

あいさつ	1
開催概要	2
大会プログラム	3
開催報告	
大会前日	4
大会1日目	5
ポスター、ブース等含む	
大会2日目	13
分科会概要	15
オールセッション概要	32
プレジオツアー概要	34
ポストジオツアー概要	36
大会宣言	40
会場周辺	41
大会参加者数	43
実行委員会名簿等	44

スペシャルサンクス（順不同・敬称略）

■ 周辺環境整備

北海道開発局室蘭開発建設部浦河道路事務所／北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部浦河出張所／各自治会・住民の皆様／さまに大通振興会／様似町役場・教育委員会職員

■ 大会運営

様似町の皆様／アポイ岳ジオパークガイドの皆様／道内ジオパークスタッフ・ガイドの皆様／様似町料飲店組合及び町内飲食店／様似小学校・様似中学校・浦河高等学校の児童生徒たち／様似小学校・様似中学校・浦河高等学校の先生方／札幌大谷大学芸術学部美術学科教職員課程2年生／平向功一（札幌大谷大学准教授）／様似民族文化保存会／様似町PTA連合会／様似町商工会及び同会事務局員／日高信用金庫様似支店職員／日高振興局はじめ北海道職員／Hidakaおもてなし部会／ひだか元気グルメ研究会／エゾシカ肉を有効活用する会／まんまの会／味方商工会／日高昆布組合／(株)中村昆布加工店／四町広域宣伝協議会／一社）浦河観光協会／広尾町観光協会／様似町観光協会／浦河町／えりも町／広尾町／様似町内の郵便局／ヤマト運輸えりも・様似センター／日高中央漁業協同組合様似支所職員及び同所青年部・女性部／えりも漁業協同組合冬島支所職員及び同所青年部・女性部／様似町青年団体協議会／様似町食育協議会／様似建設協会／(有)丸三漁業部／(有)丸協協栄水産／(有)坂本水産／久野漁業(有)／かねとう漁業部／(有)三印漁業部／様似サケ定置網漁業生産組合／様似町交通安全指導員協議会／様似ロータリークラブ／北海道地図(株)／日交ハイヤー(株)／環境省北海道環境パートナーシップオフィス／日本ジオサービス(株)／三上徹成／垣谷一高／栗原憲一／廣瀬亘／黒井理恵／津野裕子／様似町役場・教育委員会職員

■ ポストジオツアー

エクスカーション検討部会の皆様／幌満自治会／西町自治会／様似第一町内会／久野漁業(有)／丸富水産(株)／日高中央漁業協同組合様似支所職員及び同所女性部／等澍院／中村おやき店／新日本電工(株)日高工場／アポイ岳地質研究所／様似郷土館／様似民族文化保存会／JRA日高育成牧場／一社）浦河観光協会／新冠町郷土資料館／新ひだか町博物館／村上直子／浦河町立郷土博物館／北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部浦河出張所／独立行政法人家畜改良センター新冠牧場／えりも漁業協同組合えりも岬事業所／えりも町郷土資料館「ほろいずみ」・水産の館／酒井運送(株)／日交ハイヤー(株)／お料理あま屋／ファームイン守人／アポイ山荘／車屋／うらかわ優駿ビレッジAERU／プラザ味寿々／田中旅館



未来へとつながる3日間に！



第9回日本ジオパーク全国大会・アポイ岳(北海道様似町)大会実行委員会
実行委員長(様似町長)

坂下 一幸

今秋、10月6日～8日にかけて開催いたしました『第9回日本ジオパーク全国大会・アポイ岳(北海道様似町)大会』に際しましては、町内外から多くの皆様にご参加いただくとともに、様々な場面でご協力をいただき、盛会のうちに幕を閉じることができました。厚くお礼申し上げます。

北海道の10月といえば、山の上では冬の足音も聞こえるかという寒い季節です。アポイ岳の麓、様似町に集っていただいた1,000人以上の参加者・スタッフは、そんな寒さも吹き飛ばすほど熱く語り、そして楽しく充実した交流をしていただけたことと思います。今回の大会は、日本にジオパークが誕生して10年という節目の年ということ念頭に置き、これまでの大会の素晴らしい流れを継承しつつも、分科会の議論を深める『プレッシャー』や『口頭発表』など、新たな試みを加えさせていただきました。そして、最も挑戦的な試みであったのは、人口4,000人台の小さなまちで全国大会を受け入れたことだと思います。会場、宿泊場所、移動手段はもちろん、プレッシャーなど全てを様似町だけで確保することは到底無理であり、周辺のまち、そして北海道内ジオパークのみなさんなどにご協力をいただきながら、企画・運営させていただきました。参加されたみなさんには、大変なご不便をおかけしたこともあるかと思いますが、至らぬ点多々あったかもしれません。しかし、アポイ岳ユネスコ世界ジオパーク、そして北海道の素晴らしさをお伝えできたと思っていますし、洗練されたものではありませんでしたが、様似らしい温かみのある“手づくり”のおもてなしができたと自負しております。参加されたみなさんには、ぜひ、この3日間で感じたこと、気づいたことなどを、今後のジオパーク活動にお役立ていただきたいと思いますし、本報告書もその一助になれば幸いです。

最後になりますが参加された地域、そしてみなさんの今後のご多幸を祈念するとともに、ぜひ、次の機会には暖かい季節の花のアポイ岳にお出でいただき、今回とは違う“顔”のアポイ岳ユネスコ世界ジオパークをお楽しみいただければと思います。お待ちしております！

開催概要



大会名称 第9回日本ジオパーク全国大会・アポイ岳（北海道様似町）大会

会 期 平成30年10月6日(土)～8日(月)

6日：開会セレモニー／基調講演／ポスターセッション／オーラルセッション／ブース展示／
分科会／大交流会／北海道150年特別展/地元物産展ほか

7日：分科会／ポスターセッション／オーラルセッション／ブース展示／北海道150年講演会／
体験ワークショップ／地元物産展／パネルディスカッション／閉会セレモニー／
ポストジオツアーほか

8日：ポストジオツアー（アポイ岳UG Gp）

※3日～5日にかけて、アポイ岳以外の道内ジオパークにおける「プレジオツアー（分科会事前巡検）」、JGN各種会議を実施

主 催 第9回日本ジオパーク全国大会・アポイ岳（北海道様似町）大会実行委員会

【実行委員会】様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会／洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会／白滝ジオパーク推進協議会／三笠ジオパーク推進協議会／とち鹿追ジオパーク推進協議会／十勝岳ジオパーク推進協議会／上川中部地域ジオパーク構想準備会／様似建設協会／様似町食育協議会／様似町交通安全指導員協議会／様似民族文化保存会／
浦河高等学校／浦河町／えりも町／広尾町

オブザーバー：北海道日高振興局／札幌方面浦河警察署

一般財団法人 自治総合センター

共 催 特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク／日本ジオパーク委員会

後 援 北海道／北海道開発局室蘭開発建設部／北海道運輸局／北海道新聞苫小牧支社／日高報知新聞社／朝日新聞北海道支社／読売新聞北海道支社／毎日新聞北海道支社／日本経済新聞社札幌支社／十勝毎日新聞社／苫小牧民報社／NHK室蘭放送局／HBC北海道放送／STV札幌テレビ放送／UHB北海道文化放送／TVhテレビ北海道／HTB北海道テレビ／ESD活動支援センター／北海道ESD活動支援センター

協 賛 北海道地図株式会社／サッポロビール株式会社北海道本社／株式会社AIRDO／様似建設協会／様似ロータリークラブ

協 力 環境省北海道環境パートナーシップオフィス／一社）浦河観光協会／えりも観光協会／広尾町観光協会／Hidakaおもてなし部会／日高信用金庫／北洋銀行浦河支店

事 務 局 第9回日本ジオパーク全国大会・アポイ岳（北海道様似町）大会実行委員会事務局（様似町商工観光課内）
〒058-8501 北海道様似郡様似町大通1丁目21

会 場 メイン会場／様似町中央公民館（北海道様似郡様似町大通1丁目21）
大交流会等会場／様似町スポーツセンター（北海道様似郡様似町大通1丁目21）
分科会会場／様似町中央公民館、様似中学校、様似小学校、幼児センター、東様似生活館、
様似町保健福祉センター
ポスターセッション・ブース展示会場／様似町第2体育館（北海道様似郡様似町大通1丁目25-1）
オーラルセッション会場／様似図書館

大会プログラム



10/3水~5金

分科会の事前巡検に位置づけたプレジオツアー（洞爺湖有珠山、白滝、三笠、とかち鹿追ジオパーク）

10/5金

大会前日

- 13:30~15:00 **JGN事前相談会**
世界ジオパーク推薦希望地域（中央公民館会議室）
日本ジオパーク認定希望地域（中央公民館小ホール）
- 15:30~17:30 **JGN運営会議**（東様似生活館）
- 17:30~19:00 **懇親会**（東様似生活館）

10/6土

大会1日目

- 10:00~11:15 **開会セレモニー**（中央公民館文化ホール・小ホール）
- アイヌ古式舞踊（様似民族文化保存会）
 - 主催者・共催者あいさつ
実行委員会実行委員長（様似町長） 坂下 一幸
日本ジオパークネットワーク理事長（糸魚川市長） 米田 徹
日本ジオパーク委員会委員長（東京大学名誉教授） 中田 節也
 - 歓迎あいさつ
北海道副知事 阿部 啓二 様
 - 来賓紹介・あいさつ
「ジオパークによる地域活性化推進議員連盟」幹事（参議院議員） 長谷川 岳 様
衆議院議員 堀井 学 様
 - JGN認定証授与
島根半島・央道湖中海ジオパーク／萩ジオパーク
 - JGN表彰
表彰状 久保 雄 様
感謝状（特別功労賞） 北海道地図株式会社 様
- 10:00~17:00 **ポスターセッション・ブース展示**（第2体育館）
- 10:00~21:00 **北海道150年特別展**（中央公民館ギャラリー21）
- 11:00~15:00 **地元物産展**（中央公民館前駐車場）
- 11:15~12:20 **基調講演**（中央公民館文化ホール・小ホール）
「ジオパークの魂～世界ジオパークネットワークの活動～」
世界ジオパークネットワーク協会会長、ギリシャ・エーゲ大学教授 ニコラス・ゾウロス 氏
- 13:00~13:30 **中高大生ポスターセッションコアタイム**（第2体育館）
- 14:00~16:00 **分科会**（様似小学校ほか）
- 14:00~16:00 **オーラルセッション**（様似図書館視聴覚ホール）
- 16:30~17:00 **ポスターセッションコアタイム**（第2体育館）
- 17:30~19:30 **大交流会**（様似町スポーツセンター）

10/7日

大会2日目

- 9:30~12:00 **分科会**（様似小学校ほか）
- 9:30~12:00 **オーラルセッション**（様似図書館視聴覚ホール）
- 10:00~12:00 **北海道150年記念講演会**（中央公民館文化ホール）
「アイヌ語から見えるアイヌの世界観～ゴールデンカムイの世界より～」千葉大学教授 中川 裕 氏
「北海道の長い歴史～そのなかの『北海道150年』～」北海道博物館学芸主幹 池田 貴夫 氏
- 10:00~12:00 **ポスターセッション・ブース展示**（第2体育館）
- 10:00~16:00 **北海道150年特別展**（中央公民館ギャラリー21）
- 10:00~12:00 **体験ワークショップ**（様似町スポーツセンター）
- 11:00~15:00 **地元物産展**（様似町役場1階玄関ホール）
- 13:00~14:30 **パネルディスカッション**（中央公民館文化ホール・小ホール）
コーディネーター 目代 邦康 氏
栗原 憲一 氏
パネリスト 渡辺 真人 氏 沼倉 誠 氏
下村 圭 氏 白井 孝明 氏
小林 弥生 氏 黒井 理恵 氏
- 14:30~15:00 **閉会セレモニー**（中央公民館文化ホール・小ホール）
大会宣言 実行委員会実行委員長（様似町長） 坂下 一幸
次回開催地あいさつ
おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会会長（豊後大野市長） 川野 文敏 様
閉会にあたってのお礼
様似中学校3年 附田 颯汰さん 金子 里桜さん
- 15:30~ **ポストジオツアー出発**

10/8月

大会3日目

終日 **アポイ岳ユネスコ世界ジオパークとその周辺を巡るポストジオツアー**

開催報告



大会前日 10月5日(金)

JGN事前相談会【中央公民館】

世界ジオパーク推薦希望に5地域（7人）、日本ジオパーク認定希望に8地域（20人）が参加した。JGN事務局の進行のもと、現地審査員経験者等のオブザーバーを交え、世界ジオパーク推薦希望地域に対してはユネスコ世界ジオパークカウンスル委員の渡辺氏、日本ジオパーク申請希望地域に対しては日本ジオパーク委員会の中田委員長が説明を行った。机上説明、質疑応答の後、1階ロビーに移動し、日本ジオパーク申請希望地域のポスター発表と質疑応答を行った。



JGN運営会議【東様似生活館】

本大会の趣旨のひとつとしてジオパーク活動の原点回帰をあげているが、全体の共有事項として運営会議の本来のありかた、どうあるべきかが議論された。活発な議論の後、実際にどうやってジオパークの活動を発展させていくかという現場レベルで討論することが運営会議の本義であり、様々な得意分野を持つ専門員や現場で活躍している人たちの場である、とまとめられた。その他に保全窓口の設置について、JGNのコンプライアンスについても協議された。

総参加者数は95名であった。



懇親会【東様似生活館】

10月5日の諸会議等に参加された方で、懇談会を開催した。

時間が限られたなかであったが、ジオパークの仲間同士で交流していた。

総参加者数は103名であった。



大会1日目 10月6日(土)

開会セレモニー【中央公民館】

■ オープニングアトラクション

アイヌ古式舞踊

： 様似民族文化保存会



■ 主催者・共催者あいさつ



実行委員会実行委員長
(様似町長)
坂下 一幸



日本ジオパーク委員会委員長
(東京大学名誉教授)
中田 節也

日本ジオパークネットワーク理事長
(糸魚川市長)
米田 徹



■ 歓迎あいさつ

北海道副知事 阿部 啓二 様



■ 来賓紹介・あいさつ

「ジオパークによる地域活性化推進議員連盟」幹事
(参議院議員)
長谷川 岳 様

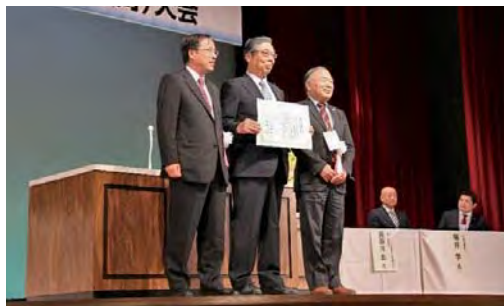


衆議院議員
堀井 学 様



■ JGN認定証授与

島根半島・宍道湖中海ジオパーク



萩ジオパーク



■ JGN表彰

表彰状授与 ～ 久保 雄 様

久保 雄様は、平成7年にフォッサマグナミュージアム友の会を結成し、現在に至るまで会長として、糸魚川ジオパークの拠点施設であるフォッサマグナ・ミュージアムの活動を支援しています。

また、自ら糸魚川ジオパーク認定ガイドとして精力的に活動を行うとともに、糸魚川ジオパーク協議会、糸魚川ジオパーク推進市民の会、糸魚川ジオパーク観光ガイドなど、関係団体の役員を務めてきました。

これら20年以上の長きにわたる活動は、日本ジオパークネットワーク加盟各地の規範となるものであり、ジオパークの普及発展への多大な貢献ををたたえ今回の受賞となりました。



感謝状（特別功労賞）授与 ～ 北海道地図株式会社 様



北海道地図株式会社様は、日本ジオパークネットワーク設立当初から連携いただき、ジオパークカレンダーの無償提供やワンダーランド展の実施無償協力、各種イベントへの参加及びコンテンツの製作や無償提供など、多種多様な活動支援を推進されました。

これらの活動は、日本におけるジオパーク活動や日本ジオパークネットワークの礎となるものであり、その功績をたたえ今回特別功労賞として感謝状を授与するものです。

■ 基調講演【中央公民館】

「ジオパークの魂～世界ジオパークネットワークの活動～」

世界ジオパークネットワーク協会会長、ギリシャ・エーゲ大学教授 ニコラス・ゾウロス 氏



中高大生ポスターセッション【第2体育館】

本大会においても、前回大会同様、明日のジオパーク活動を担う中学生～大学生のポスターセッションを設定し募集を行った。しかし、大学生の応募がなかった半面、小学生からの応募があったため、事情を説明し、中学生の部で審査を行った。

なお、審査対象はコアタイムのみとし、次の観点で審査を行った。

- ・ジオパークや地域振興に有益な視点があるか
- ・ジオパークの視点からみて、評価できるか
- ・学生の活動として、将来性や経験の蓄積に寄与するか
- ・工夫や努力が見られるか

参加校及び優秀賞受賞校は、以下のとおりである。



参加校

地域	発表者	標題	学校名
アポイ岳ジオパーク	石田佑、桐山依歩樹、富菜海衣、堀川蓮太、三上慎矢、安田優	花の名は。	浦河高校
十勝岳ジオパーク構想	八木橋佑樹、菅原隆雅、河口仁美	ボランティア登山の取り組みについて	上富良野高校
佐渡ジオパーク	相田嵩大、杉本和優、竹中姫鞠、服部瞳月	佐渡ときめき物語 Part 2	新穂小学校
アポイ岳ジオパーク	石田佑、桐山依歩樹、富菜海衣、堀川蓮太、三上慎矢、安田優	アポイ岳の植生について	浦河高校
アポイ岳ジオパーク	岡本美羽、金子里桜、小西流真、坂本麻耶、附田颯汰、三上唯憂香	アポイ米との出会いはいちご一会	様似中学校
アポイ岳ジオパーク	伊藤仁栄、竹内天太、野沢涼太、福村周矢、港康輝	様似と三笠の開拓史	様似中学校
アポイ岳ジオパーク	荒谷美珀、小野龍平、佐藤皓都、辻絢香、中村美友	多種多様な動植物について	様似中学校
Mine秋吉台ジオパーク	大田乃依、小林由布奈、佐藤日美	Mine秋吉台ジオパークの「黒」の歴史～無煙炭とともに生きる～	豊田前中学校
十勝岳ジオパーク構想	戸田もなみ、小玉瞳、山本爽羽	「泥流地帯」(作：三浦綾子)の映画化をすすめる取り組みについて	上富良野高校



優秀賞受賞

部 門	テ ー マ	発表者所属団体
中学校の部	アポイ米との出会いはいちご一会	様似中学校
	Mine秋吉台ジオパークの「黒」の歴史～無煙炭とともに生きる～	豊田前中学校
高校生の部	ボランティア登山の取組みについて	上富良野高校
特別奨励賞	佐渡ときめき物語 Part 2	新穂小学校

一般ポスターセッション【第2体育館】

一般ポスターセッションには49の申込みがあり、コアタイムを中心に、活発な発表が行われていた。



地域	発表者	標題
下北ジオパーク	石川智、小池拓矢	地域産品の認定制度の取り組みと効果
Mine秋吉台ジオパーク	倉増裕	Mine秋吉台ジオパークを「テーマパーク」に！
恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク	町澄秋	学校教育現場でシリーズとしてのジオパーク学習を行うには：恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークの例
十勝岳ジオパーク構想	藤原悟、佐藤雅喜、齊藤文朗、林崎涼、田中誠也	十勝岳ジオパーク構想の教育連携
箱根ジオパーク	一寸木肇	次世代にジオパーク活動をつなげる～箱根ジオパーク教育部会の活動から～
萩ジオパーク	伊藤靖子、中村浩二、白井孝明、肌野美怜、斉藤みよ子	山陰海岸ジオパークとの交流で気付いたこと～ジオパークの楽しみ方～
筑波山地域ジオパーク	柴原利継	筑波山地域ジオパーク ジオブランド認定商品が誕生！
箱根ジオパーク	村山一郎、片野忍、奥津悠介	第11回日本ジオパークネットワーク全国研修会について
恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク	森石慶裕	ジオの恵み「雪」を活用しての各種取り組み
那須烏山ジオパーク構想	澤村俊夫、吉澤時明、菅谷しのぶ、河野重範	那須烏山ジオパーク構想におけるジオガイドの活動
八峰白神ジオパーク	日沼久人	絵画で表現されたジオサイト～絵画展を通じた地域住民のジオパーク活動への普及活動の一例～
室戸ジオパーク	中村有吾、高橋唯、小笠原翼、ミンダ・デットマン、吉本昌弘、川越桂太、山崎桂、和田庫治	JGN再審査と室戸ユネスコ世界ジオパーク
大雪山カムイミントラジジオパーク構想	川辺英行	上川中部地域におけるジオツアーの開催事例について
伊豆大島ジオパーク	橋本樹里、岩崎悠希、白井里佳	伊豆大島ジオパークの魅力を将来にわたって受け継いでいくために ー伊豆大島ジオパーク保全活用計画の策定ー
四国西予ジオパーク	榊山匠、宇都宮弘志郎	平成30年7月豪雨災害による四国西予ジオパークの被害状況について

地域	発表者	標題
苗場山麓ジオパーク	大塚与四次、広瀬幸利	ガイドによるジオサイト巡りの案内事例
ジオパーク秩父	吉田健一、宮前拓朗	ジオパークになって7年「ジオパーク秩父の広がり」
那須烏山ジオパーク構想	中山雅彦	栃木県那須烏山市の小学校におけるジオサイトとガイドの活用例
伊豆半島ジオパーク	塚本春菜	伊豆半島でのジオカフェの取組みについて
三好市	殿谷梓	三好市のジオ・エコ・カルチュラルサイトの設定
霧島ジオパーク	坂之上浩幸	霧島ジオパークエリア拡大と課題
男鹿半島・大潟ジオパーク	澤田信、永野重明、藤井恵美子、 竹内弘和、澤木博之	ジオサイト保全に向けた新たな取組み
磐梯山ジオパーク	蓮岡真	華麗なる再デビュー！「磐梯山ジオパークカレー」 ～一杯のカレーがつなぐジオパーク活動～
白山手取川ジオパーク	日比野剛、富田揚子、大西龍一	白山手取川ジオパークにおけるガイド養成講座の取組み
山陰海岸ジオパーク	金山恭子、安藤和也、山下直人、 浅田欽一、岸本英夫	山陰海岸ジオパークトレイル： 私たちの街と自然、歴史をつなぐトレイル
おおいた豊後大野ジオパーク	日向千草、田吹文子、佐伯慎一、 後藤竹義	ジオガイドが担うジオツアーの役割
南アルプスジオパーク	小澤 恵理	ジオパークと公民館
土佐清水ジオパーク構想	佐藤久晃、今井悟、土佐清水認定ジオガイド	ジオガイドと専門員によるジオストーリーの構築
萩ジオパーク	伊達千絵、藤田尚子、正司かおる、 磯村亜由美、松田光一、増野和幸、 樋口尚樹、伊藤靖子、白井孝明	ふるさと萩を愛する子どもをジオパークで ～4年の歩み
とかち鹿追ジオパーク	三反崎順也	鹿追スタイルのジオパーク
八峰白神ジオパーク	山内真義	まちあるきとジオツアーの融合を通じた相互理解の深化
ゆざわジオパーク	高柳春希	ゆざわジオパークの温泉、湧水、硫気孔が形づくる生物の分布や動態について
山陰海岸ジオパーク	成田浩一、波内祐美子	山陰海岸ジオパークを取り入れた豊岡のふるさと教育
三笠ジオパーク	相場大佑、上口壮太、重松百之香、 唐沢與希	オリジナルキャラクター「あんもふれんず」と関連グッズの開発と活用
東三河ジオパーク構想	加藤千茶子、加藤貞亨	東三河地域におけるジオガイド養成への取組み
栗駒山麓ジオパーク	佐藤英和、佐藤充	「岩手宮城内陸地震10年メモリアル国際シンポジウム 地震による斜面災害の実際と克服の工夫」の開催報告
室戸ジオパーク	ミンダ・デットマン	ユネスコ世界ジオパークでの国際交流員の重要性
糸魚川ジオパーク	磯貝謙二、久保雄、渡辺久	糸魚川市駅北大火被災地のまち歩き
三笠ジオパーク、 北海道地図	下村圭、小林毅一、田中祐未、 千葉武史	ジオパークネットワークを活用したTV電話を使用した学校教育活動の取組みについて
佐渡ジオパーク	市橋弥生	地域住民といっしょにつくるジオツアー ～佐渡ジオパーク沢崎集落の事例～
下仁田ジオパーク	原秀夫、大小原敏江、岩井実、 関谷友彦、片山美雪	世界遺産を活用した地域学習への活用
おおいた姫島ジオパーク	須賀宣光、須賀猛明、堀内悠	ジオクルーズの取組み
島根半島・宍道湖中海ジオパーク	辻本彰、林広樹、大平寛人、 森江和文	島根大学における島根半島・宍道湖中海（国引き）ジオパーク推進協議会と連携した授業の実践例
銚子ジオパーク	坂巻哲、藤本一雄、山内祥行、 小川正俊	未災地の銚子ジオパークにおける防災ジオツアーの開発と試行

ブース展示【第2体育館】

ブース展示には23団体の申し込みがあり、各ブースともバラエティー豊かな展示を行っていた。



ブース出展団体一覧

団体名	団体名	団体名
三好市役所	湯沢市ジオパーク推進協議会	エクスプローラーズ・ジャパン株式会社
栗駒山麓ジオパーク推進協議会	兵庫県立大学	Mine秋吉台ジオパーク推進協議会
おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会	霧島ジオパーク推進連絡協議会	佐渡ジオパーク推進協議会
京都大学	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	阿蘇ジオパーク推進協議会
島根半島・宍道湖中海ジオパーク推進協議会	銚子ジオパーク推進協議会	苗場山麓ジオパーク推進協議会
北海道地図株式会社	株式会社アークノハラ	室戸ジオパーク推進協議会
浅間山ジオパーク推進協議会	株式会社クールスター	山陰海岸ジオパーク推進協議会
洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会	男鹿半島・大湊ジオパーク推進協議会	

地元物産展【中央公民館前駐車場】

様似町アポイ岳ジオパークや周辺地域の特産品を集めて、物産展を開催した。

特に、6日は昼食も兼ねられるよう、そばや鹿肉ステーキなどの“屋台”も出店し、大変好評であった。





地元物産展出店事業者一覧

団 体 名	団 体 名	団 体 名
Hidakaおもてなし部会	ひだか元気グルメ研究会	エゾシカ肉を有効活用する会
まんまの会	味方商工会	日高昆布組合
広尾町観光協会	一社) 浦河観光協会	様似町観光協会
臨時郵便局	ヤマト運輸えりも・様似センター	

大交流会【様似町スポーツセンター】

様似町の大地の恵みをふんだんに使った地場料理は大変な好評を得た。会場では町民ボランティアが調理、給仕をし、参加者を心からもてなしたほか、大会名誉実行委員長でもある高橋はるみ北海道知事も駆けつけた。商工会員から提供された様似産品の抽選会で会場内が熱気に包まれるなか、ステージでは西日本豪雨で大きな被害を受けた四国西予ジオパーク推進協議会からお礼と復興への決意が述べられ、その後に次回開催地であるおおいた豊後大野ジオパークとおおいた姫島ジオパーク、大分県の関係者がPRを行った。

クライマックスは坂下実行委員長が音頭をとり、参加者が肩を組み合わせながらの大合唱。

会場が一つになり「イランカラッテ」の歌声が鳴り響くなか、お開きとなった。



北海道150年特別展【中央公民館】

今年は「北海道」と名付けられて150年という節目の年である。これを記念して、北海道の名付け親である松浦武四郎と様似の関わりを中心として、プロジェクションマッピングなどを設置し、北海道と様似の歴史を紹介した。



“さまにの石でさまにの絵をかこう” 作品展示【中央公民館】

全国大会にあわせて、様似を代表する石である“かんらん岩”をくだいて岩絵の具の材料にして、様似の風景を描くワークショップを行った。

このワークショップは、様似小学校5年生と札幌大谷大学芸術学部美術学科教職課程2年生が共同で日本画作品を制作するもので『アボイ岳と高山植物』『親子岩と夕日』の2作品を制作した。

全国大会1日目には、制作した5年生が会場に来て、感想などを説明した。



オーラルセッション【様似図書館】

全国大会初の試みとして実施。16件の発表があり、活発な質疑応答が交わされていた。

※詳細は32ページ～33ページを参照ください。

分科会【町内各会場】

今大会では、町内各会場において8分科会を開催した。

※詳細は15ページ～31ページを参照ください。

大会2日目 10月7日(日)

オーラルセッション【様似図書館】

1日目に引き続き開催した。 ※詳細は32ページ～33ページを参照ください。

分科会【町内各会場】

1日目に引き続き開催した。 ※詳細は15ページ～31ページを参照ください。

北海道150年記念講演会【中央公民館】

北海道との共催事業として、次の2本の講演を行った。荒天にも関わらず、100名以上の方に参加いただいた。

「アイヌ語から見えるアイヌの世界観～ゴールデンカムイの世界より～」 千葉大学教授 中川 裕 氏

「北海道の長い歴史～そのなかの『北海道150年』～」 北海道博物館 学芸主幹 池田 貴夫 氏



体験ワークショップ【スポーツセンター】

北海道内ジオパーク（洞爺湖有珠山、白滝、三笠、十勝岳）で親子向けの体験ワークショップを行った。

荒天であったが多くの親子連れが訪れ、楽しく“ジオ”を学べる内容に、歓声が上がっていた。



北海道150年特別展【中央公民館】

中高生ポスターセッション・一般ポスターセッション【第2体育館】

ブース展示【第2体育館】

地元物産展【様似町役場 1 階ロビー】

なお、7日は、台風接近のため様似町役場 1 階ロビーで販売を行った。



パネルディスカッション【中央公民館】

テーマ 「これまでの10年から明日のジオパークを考える」

コーディネーター 目代 邦康 氏（日本ジオサービス㈱代表取締役）

栗原 憲一 氏（北海道博物館 学芸主査）

パネリスト 渡辺 真人 氏（産業技術総合研究所地質情報研究部門）

沼倉 誠 氏（湯沢市産業振興部長）

下村 圭 氏（三笠ジオパーク推進協議会事務局次長）

白井 孝明 氏（萩ジオパーク構想推進協議会専門員）

小林 弥生 氏（アポイ岳ジオパーク認定ガイド）

黒井 理恵 氏（㈱DKdo北海道事務所取締役）



閉会にあたってのお礼【中央公民館】

様似中学校 3 年 附田 颯汰さん 金子 里桜さん



分科会概要



10月6日(土)14:00~16:00 10月7日(日)9:30~12:00

分科会

1

ジオパークが担う普段の減災(防災)活動って何？

参加人数 70

会場 様似小学校体育館

キーワード 減災、防災、減災教育、教育旅行

企画運営 洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパーク

分科会

2

人の暮らしとジオを考える

参加人数 44

会場 様似町保健福祉センター

キーワード 人類の資源利用、黒曜石、価値の伝え方、ジオストーリー

企画運営 白滝ジオパーク、橋詰潤(新潟県立歴史博物館)、黒曜石ネットワーク

分科会

3

学びが生み出す地域の未来づくり

参加人数 61

会場 東様似生活館

キーワード 教育セッション

企画運営 三笠ジオパーク、教育WG

分科会

4

「備えあれば憂いなし!」ガイドツアーのリスクマネジメント～リスクを味方につけるガイドのコツ～

参加人数 58

会場 様似中学校体育館

キーワード ジオガイド、ジオツアー、安全管理、リスクマネジメント

企画運営 とかち鹿追ジオパーク、ガイドWG

分科会

5

無形文化財の伝承と活用をジオパークで考えるーアイヌ文化を例にー

参加人数 50

会場 様似町幼児センター

キーワード 無形文化財、アイヌ文化、伝承、活用、地名

企画運営 保全WG、アポイ岳ユネスコ世界ジオパーク

分科会

6

自然災害とユニバーサルデザイン～すべての人が心地よく過ごせるジオパークを目指して～

参加人数 25

会場 様似小学校フリースペース

キーワード ジオパークにおけるユニバーサルデザイン

企画運営 ユニバーサルデザインWG

分科会

7

Discussion with Prof. Nickolas ZOUROS・坂下様似町長によるミニ巡検

参加人数 40

会場 様似中央公民館

キーワード ジオパークのマネジメント、ジオパークのリーダー

企画運営 目代邦康(日本ジオパークサービス株式会社)

分科会

8

SDGsから考えるジオパークと持続可能な社会

参加人数 48

会場 様似中学校視聴覚室

キーワード S D G s (持続可能な開発目標)

企画運営 環境省北海道環境パートナーシップオフィス、北海道地方 E S D 活動支援センター

ジオパークが担う普段の減災（防災）活動って何？

企画・運営

洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパーク

コーディネーター 加賀谷 にれ、横山 光（洞爺湖有珠山）／大野 希一（島原半島）

概要

JGNの防災ワーキンググループを中心に、災害発生時の被災地支援や“ぼうさいこくたい”への参加等、ジオパークのネットワークを活用した防災・減災に関する取組みが始まっている。その一方で、「なぜジオパークが減災（防災）を？」「減災は、行政の防災担当の役目では？」といった声がいまだに聞かれ、ジオパーク活動と減災への貢献に関する基本的な理解はまだ進んでいない。そこでこの分科会は、普段のジオパーク活動が結果的に減災に貢献することに対し、関係者が理解を深めることを目的に実施した。

内容

【10月6日(土) 14:00～17:00】

- ・趣旨説明 加賀谷にれ（洞爺湖有珠山）、大野希一（島原半島）
- ・プレジオツアーの内容紹介およびアンケート結果の報告 中谷 麻美（洞爺湖有珠山）
- ・新燃岳噴火（2011、2017-2018）の対応と課題 坂之上 浩幸（霧島）
- ・岩手・宮城内陸地震（2008）の被害と減災教育 佐藤 秀和（栗駒山麓）
- ・熊本地震（2016）の被害とジオパーク運営への影響 石松 昭信（阿蘇）
- ・津波の減災教育と、海の楽しさ・豊かさを伝える活動 仲江 孝丸（南紀熊野）
- ・伊豆大島火山噴火（1986）土砂災害（2013）と減災活動 白井 里佳（伊豆大島）

【10月7日(日) 9:30～12:00】

- ・グループワーク①「ジオパークの行う普段の減災活動の事例と課題」
- ・グループワーク②「直面する課題に対し、どのような解決策があるか」

まとめ

災害別*に班分けし、以下の2テーマで議論・発表した。内容は以下のとおり。

(*災害別班分けは、「火山災害」「土砂災害」「津波」の3班。「地震」は少数のため津波に統合した)

【ジオパークの行う普段の減災活動の事例と課題について議論・発表：45分】

- ジオパークで行っている普段の減災活動
 - 火山班) 噴火の場面をイメージした対話による学習、火山灰を楽しむイベントを実施。
 - 土砂班) 学校の先生と連携した、集落の地形、地質、過去の水害遺構の学習を実施。
 - 津波班) 過去の津波浸入路を歩き、防災マップの改善を考えるイベントを開催。など
- 減災活動を進める上で直面している（または考えられる）課題
 - 火山班) メディア犠牲の問題。行政だけで進める弊害、災害は防災担当というタテ割り。
 - 土砂班) 地域による情報格差、障がい者、観光客にリスク情報が伝わらない。
 - 津波班) 有事のジオパークの役割が未設定、配布した副読本が使われない。など

【課題解決策についての議論・発表：45分】

上記波線部の課題に絞り、ジオパークの活動に関わる具体的な解決策を考えた。

① タテ割りの壁を、どう乗り越えるか？

- 地域防災計画は責任所在が不明瞭なものも多く、ジオパークを含め担当・役割を明記する。
- 散策路は管理者が別々で、関係者間の情報共有が大事。協議会が防災会議に参画（霧島）、環境省や気象庁職員が日頃の活動から地域と非常に緊密（伊豆大島）の好事例あり。など

② 観光客とリスク情報をどう共有するか？

- 情報の橋渡しを担う専門員がもっと減災を知る。下記に心がけ低リスクのツアーを実施。
【事前】ツアー概要や装備など事前の情報提供、催行上限を10名、現地集合・解散。
【当日】最悪の事態を考えた催行判断、対面確認、様々な媒体によるリスク情報の提供。
【普段】ガイド同士でリスク情報を共有、発災時を想定したガイドトレーニング。など

③ 製作した教材を、どうすれば活用されるか？

- 教材の企画の段階から、先生と一緒に利用シーンを考えて作れば、使われる。
- すでに作った教材については、先生と地道に接触して、使ってもらう。
- アップデートも大事。その年に起こった災害や被災体験、意見などを含める。
- 教材の学習に加え、昔からの（根拠のある）言い伝えなどを、ガイドが伝える。
- 過度に怖がらせるのではなく、恵みとのバランスが大切。

企画運営者の 総括・感想

自然災害には地域性があり、またそれに対峙する地域の課題も多様のため、分科会での議論をまとめた言葉はどうしても包括的な表現となり、具体性に欠ける。そこで今回は災害種別に班を分け、共通の課題の議論を通じて具体的な解決策を得ることを目指した。議論を深めていく中では、大会テーマに倣い、地域の将来を見据えた減災活動のあり方を重視した。

分科会では、2030年を目標年とするSDGs（持続可能な開発目標）についても触れた。なぜなら、地域で展開されている地道な減災活動が、世界が掲げる共通の目的達成に貢献できるということを参加者が認識する機会と考えたためである。自然災害が多発し、防災・減災に対する経験がある日本のジオパークは、ジオパークプログラムを活用し、減災活動のノウハウを世界に共有することが求められている。国内の個別事例の紹介にとどまらず、日本の多くのジオパークで実施されている質の高い減災教育が国際的に評価される将来を期待し、本分科会の総括としたい。

(加賀谷・横山・大野)



人の暮らしとジオを考える

企画・運営

企画 橋詰 潤（新潟県立歴史博物館）／黒曜石ネットワーク

コーディネーター 熊谷 誠、佐野 恭平（白滝ジオパーク）／橋詰 潤（新潟県立歴史博物館）

概要

世界ジオパークネットワークガイドラインでは、地形・地質学的に重要なサイトだけでなく、生態学的、考古学的、歴史的、文化的な価値のあるサイトも対象として取り上げる必要があることが明記されている。10年間の日本のジオパーク活動において、地形・地質サイトについてはその「価値」を伝える方法が研鑽され、成果が蓄積されてきたが、生態学的・考古学的サイトに関しては不十分といえる。また、ジオを背景にその地域に成立した人の歴史・文化との「つながり」を説明する際にも、社会科学的なアプローチが不足している感がある。本分科会では、白滝ジオパークのプレ巡検と連動し、黒曜石をテーマとしたフィールドワークと座学を実施し、考古学的アプローチから「人の暮らしとジオのつながり」を参加者とともに学んだ。さらに、ジオパークが扱う遺産の価値の伝え方について、5つの異なるシチュエーションから事例発表を行い、参加者と意見交換を行った。

内容

プレ巡検&分科会 開催日：10月3日(水)～4日(木) 参加者11名

人の暮らしとジオ資源のつながりを伝える活動として、白滝ジオパークの黒曜石を中心とした取り組みについて現地で学んだ。

分科会 1日目 開催日：10月6日(土) 14:00～16:00

14:00～14:10 趣旨説明

14:10～15:40 基調講演 木村英明（白滝ジオパーク交流センター名誉館長）
「黒曜石・ヒト・技術—人の文化を支えるジオ資源—」

15:50～16:00 質疑応答

分科会 2日目 開催日：10月7日(日) 9:30～12:00

9:30～ 9:50 グループワークの手順説明、班分け

9:50～11:50 ポスターセッション&ワールドカフェ

事例発表① 橋詰潤（新潟県立歴史博物館）

「歴史博物館で人と地球のつながりを伝える」

事例発表② 中村有吾（室戸ユネスコ世界ジオパーク）

「ジオ遺産をどう伝えるか？」

事例発表③ 佐野恭平（白滝ジオパーク）

「学校教育と連携したジオ資源の価値を伝えていく取り組み」

事例発表④ 野辺一寛（隠岐ユネスコ世界ジオパーク）

「ジオパークガイドとしての取り組み

～参加者に楽しんでもらうための工夫～」

事例発表⑤ 熊谷誠（白滝ジオパーク）

「国指定名勝を舞台とした謎解きゲームの取り組み」

※参加者を10名前後の5つの班で分け、20分（事例発表10分、意見交換10分）で次の事例発表のテーブルへ移動することとした。

※2回したところでコーヒープレイク（30分）を挟み、参加者間の交流を促した。

11:50～12:00 質疑応答・まとめ

まとめ

人の暮らしとジオのつながりを知り、その価値をどのように伝えていくかについて、人類による資源利用の原点ともいえる黒曜石を題材としたプレ巡検と講演によって取り組み例を学んだ。講演後の質疑応答も活発で、本テーマへの興味関心が高いことが窺えた。事例発表については、「博物館」、「現地」、「教育現場」、「ガイドツアー」、「ガイドのいない観光イベント」という5つの異なるシチュエーションで行い、参加者がそれぞれの立場、場面で何が出来るか発表者と意見交換を行うことで、価値を伝えていくためのより良い方法について模索してもらった。ワールドカフェ方式を取り入れ、参加者が発表者の各テーブルを巡回したことにより、発表者と参加者だけでなく参加者同士でも意見交換が行われ、多くの事例を共有することができた。全体的には活動に際しての悩みが多く、先発地域の取り組みが後発地域に共有されていない状況が見えた。社会科学をベースに人の暮らしとジオのつながりを伝える活動を一般社会に広めていくために、様々な地域の人がいつでも引き出し、実践し、フィードバックができる仕組みや体制の整備が必要であることを参加者全員で確認した。

企画運営者の 総括・感想

今大会のテーマの1つである「弱い紐帯」の強みを生かすことを意識し、事例発表者と参加者、参加者同士が活発な意見交換をできるよう、ポスターセッションにワールドカフェ方式のグループワークを取り込み実施した。これまでの事例発表の場は時間的な制限もあり、発表者と参加者の双方向のコミュニケーションが難しく、興味関心の高い一部の参加者とのやり取りに終始してしまうことがあった。本方式により、参加者にとって価値の高い情報を入手、交換することができたと思う。また本分科会は、新規認定地域や認定を目指す地域、全国大会や分科会への参加経験が少ない参加者が多かった。保全や教育、ツーリズムなど、これまでの活動を蓄積し、より専門性を高めていく作業が求められていく一方で、本分科会のような情報交換の場、弱い紐帯を強めていく場があらためて必要であると感じた。

(熊谷、佐野)



木村英明氏による基調講演



基調講演での質疑応答



ポスターセッション＆ワールドカフェ



ワールドカフェでの参加者同士の交流

学びが生み出す地域の未来づくり

企画・運営

コーディネーター 下村圭（三笠ジオパーク）

ファシリテーター 松田剛史（NPO「ソーシャルアドベンチャーあんじょう家本舗」）

協力 教育ワーキンググループ

※文部科学省「ジオパークを活用したESD-SDGs学校教育推進モデル・教育旅行推進モデル開発事業」の一環で開催

概要

ESD（持続可能な開発のための教育）やコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）など、地域で実施されている様々な教育活動について、学び・再認識・振り返りを行い、学びが生み出す地域の未来づくりを考えるきっかけとして、「ジオパークは地域（社会）にどのように貢献できるのか」「ジオパークにおける未来づくりとは」「持続可能な社会づくり・人づくりとは」などについて、講演やワークショップなどを通じ、参加者同士が意見交換等を行い、各地域へ持ち帰り実践を行うための場づくりとして実施した。

内容

10月6日

14:00 開会・趣旨説明 → 14:05 プレジオツァー報告・総括 → 14:15 講演①

→ 14:55 コーヒーブレイク → 15:05 講演② → 15:35 意見交換 → 初日終了

講演①「教育活動における『ESD×SDGs×ジオパーク』の取り組みから地域の持続可能性について考える」 柴尾 智子（ESD活動支援センター）

講演②「地域におけるコミュニティスクールとジオパークの関わりについて」

永堀 善之（北海道教育庁胆振教育局）

10月7日

9:30 開会・振り返り → 9:45 ワールドカフェ（途中コーヒーブレイク）

→ 11:45 総括・全体振り返り・まとめと共有・大会宣言内容の確認

ワールドカフェROUND質問

① ジオパーク活動における「教育」とはなんだろうか？

② ジオパーク活動における「教育」とはなんだろうか？必要なことってなんだろうか？

③ ジオパーク活動において「教育」をどのように進めるとよいか？

プレジオツァーと連動した取り組みとして、ジオパークにおける「教育」には様々な切り口があることを多様な参加者との対話や意見交換を通じて気づき、ジオパーク活動における「教育」について広い視野から考え、行動に結び付けることができるようになることを目的に、初日は「世界の潮流とジオパークの「教育」の関わりについて知る」、2日目は「ジオパークにおける「教育」のあり方や、進め方について考える」をテーマに実施した。

まとめ

講演①では「ESD」や「SDGs」について講演と通じて改めて知識を深めた。教育はすべてのSDGs達成のために必要であり、ESDは持続可能な開発の担い手づくりのための教育・学びである。ジオパークの活動は地域の持続可能な開発のための活動であることから、すべからくESDの実践であり、SDGsに貢献しているということを共有した。

講演②では「コミュニティ・スクール」について制度や内容について知識を深め、学校教育や社会教育についてジオパークとの関わりや可能性について事例等を通じて学習した。

「教育」は多様で多彩な取り組みであり地域によって特色がある。また学校教育や社会教育など、それぞれの立場によって地域における様々な教育活動を実践していることを知ることができた。

上記に加え、意見交換を中心としたワークショップを行うことで、多様な利害関係者における情報・事例共有や意見交換を行うことで、ネットワーク活動を通じた深い学びへと結びつけることができたと考える。

企画運営者の 総括・感想

プレエクスカーションと連動した取り組みを行い、全体の流れとストーリーをしっかりと構築することで、各地域の多様な活動について深く知り、意識的に意見交換を行う「機と場」を設けることで、ジオパーク活動における「教育」について広い視野から考えることができたのではないかと考える。

今回の経験や交流を活かし、各地域で行動へと結びつけ、新たな教育活動へと繋がっていくことを期待するとともに、次回の全国大会においてもプレジオツアーとの連動した取り組みの継続実施を希望する。

(下村)



柴尾次長による講演



ワールドカフェテーマ説明



意見交換の様子



大会宣言内容の確認

「備えあれば憂いなし!？」ガイドツアーのリスクマネジメント ～リスクを味方につけるガイドのコツ～

企画・運営 ガイドワーキンググループ とかち鹿追ジオパーク

阿久澤小夜里（とかち鹿追ジオパーク）、松本宏樹（とかち鹿追ジオパーク）、大西潤（とかち鹿追ジオパーク）、高田正澄（筑波山地域ジオパーク）、山崎真流子（阿蘇ユネスコ世界ジオパーク）

概要

当分科会では、ガイドツアー中の安全管理について、全国の活動や経験を共有し、今後の事故防止に繋げることを目的に開催した。開催にあたり、全国で活動するガイド・事務局に事故・ヒヤリハットについてのアンケート調査を行い、その結果を共有した。

内容

分科会は、参加者それぞれの経験や立場の違いによる視点の相違等を理解・共有するため、行政職員・ガイド混合の6人1グループで行った。参加者は、ガイドという業種もあってか、和気あいあいと積極的に意見を交わしていた。

1日目（10月6日）

14:00－14:15 主旨説明・参加者間自己紹介

14:15－14:25 プレツアー実施結果紹介

14:25－14:55 講義「安全管理とは」

15:05－16:00 ケーススタディ

プレツアーでの様子を画像で紹介し、場面場面でどのような危険が潜んでいたかを考え、ガイドの立ち位置、気を配るポイントなどを共有した。

2日目（10月7日）

9:30－9:40 事故・ヒヤリハット事例集の紹介

9:40－10:00 ガイドツアーに関する保険紹介（東海日動パートナーズ北海道・川人）

10:10－11:45 グループワーク「安全管理の視点で仮想ツアーを構築してみよう」

11:45－12:00 まとめ

グループワークでは、お題として出されたツアーに対し、催行前と催行時においてどのような準備と配慮が必要かをグループ毎に検討・共有した。また、急遽発生したアクシデントについてどのように対応するか検討した。

まとめ

ジオツアーでは、天候や訪問先の整備状況の他、参加者の個々の状況（体調や年齢等）を考慮し、安全なサービスを提供しなくてはならない。安全確保は、ガイド個人の技術力・知識量等に依るところも大きく、全てのガイドが、この状況・この環境下であれば何人の安全を確保できる。といった安全のラインを安易に定めることは危険である。今回の分科会を通じ、ジオパークのネットワークを活用し、全国の経験を共有することで、「こんな事故が起きるなんて思ってもみなかった」といった想定外を減らし、適切な判断を下すためのスキルアップを図ることができた。

最後に、ガイドにとって、お客様の安全確保は前提条件である。しかし、「安全第一、何事（アクシデント）も起こさないツアー」の提供を目指すのではなく、「楽しんでいただくための安全確保」という視点を忘れずに今後も互いに切磋琢磨していこうということを共有した。

企画運営者の 総括・感想

今回は、プレッシャーと分科会をセットで行う長丁場の企画であったが、その長丁場を逆にとり？コーディネーターの5名は、開催期間中も参加者の顔や反応を見ながら、「明日の内容はこうしよう。ここにもうちょっと時間を割きたい」といった議論を繰り返して内容をブラッシュアップしていった。その成果もあり、分科会終了後のアンケートでは、多くの方から楽しみながら学びを深めることができた。という感想をいただいた。現場での状況の共有、そして室内での協議という流れは、ジオパークの様々を議論する上で非常に有用な方法であることを再確認した。

(大西)



無形文化財の伝承と活用をジオパークで考える ～アイヌ文化を例に～

企画・運営

企画 保全ワーキンググループ

コーディネーター 竹之内耕（糸魚川ユネスコ世界ジオパーク）／市橋弥生（佐渡ジオパーク）

概要

演劇や音楽、工芸技術などの無形の文化財は、それぞれの地域で育まれてきたものであり、その成立の背景には、それぞれの地域の自然環境とそこで暮らしてきた人々の文化の積み重ねがある。こうした関係性を可視化し、それをジオパーク活動の中にどのように位置づけ、いかに次世代へ伝承していくかを私たちは考えていかなければならない。様似に伝わるアイヌ古式舞踊は、国重要無形文化財とユネスコ無形文化財に指定・登録されており、踊りや楽器、伝統料理などの伝承、保存活動がすすめられている。また、アイヌ語由来の地名が、大地と暮らしの関係性やその歴史を語る時に取り入れられている。こうした無形の文化財の伝承や活用の実際について、講義と見学会で学び、ジオパークにおける無形の文化財の意味やジオパークを利用した伝承や活用の方法について考え、議論を行った。

内容

10月6日（土）

13:30～15:00 現地見学会「アイヌ語地名巡り」

アイヌ語由来の地名が残るジオサイトを巡り、地名がどのようなアイヌの伝説から起こったのか、風土や暮らしの視点から学んだ。

15:00～15:15 趣旨説明

15:15～16:00 講義『無形文化財の伝承と活用をジオパークで考えるーアイヌ文化を例にー』
大野徹人氏（アポイ岳ユネスコ世界ジオパーク）

10月7日（日）

9:30～10:15 事例発表

1. 「民話」 竹之内耕（糸魚川ユネスコ世界ジオパーク）
2. 「石工技術」 市橋弥生（佐渡ジオパーク）
3. 「男鹿のナマハゲ」 鎌田 栄（男鹿半島・大潟ジオパーク）
4. 「佐陀神能と浦々」 森江和文（島根半島・宍道湖中海ジオパーク）
5. 「地学に関わりのある無形文化財の保存」 目代邦康（日本ジオサービス㈱）

10:15～10:30 コーヒーブレイク

10:30～11:30 グループ討議「無形の文化財をジオパークの中で活かしていくためには何が足りないのか、何をすればいいのか」

11:30～12:00 発表

まとめ

無形の文化財の伝承と活用について、アイヌ文化を例に講義と現地見学会から学び、また各地から報告された民話や石工技術、祭り、能楽の伝承と活用についての現状や課題を知った後、「無形の文化財をジオパークの中で活かしていくためには何が足りないのか、何をすればいいのか」を考えるグループ討議を行った。無形の文化財の価値づけを行う、それらの記録を保存する、大地と文化財とのつながりを見つけていく、ツアーに無形の文化財を取り入れてみる、将来の担い手である子どもたちへの伝承を行う、活用がうまくいくことが保存の前提、もっと地域住民に無形の文化財の価値を伝えるなどの意見やアイディアが出された。無形の文化財には、自然や大地と人との関係性を示すものがあり、ジオパークの重要な構成要素として積極的に活用していくべきことを学んだ。

企画運営者の 総括・感想

無形の文化財を初めて分科会のテーマに選んだ。無形の文化財はジオパークに取り入れていくべき要素でありながら、あまり意識されて活用されていない現状がある。今回の分科会を通して、無形の文化財には、自然と暮らしの関係が示されているものがあり、それらはジオパークに大いに活用されていくべきものであることが理解されたと同時に、それらを伝えていく具体的な方法や伝承の難しさなどを知ることができたと思う。とくにアイヌの地名の起こりは、無形の文化財の伝承と活用について興味深く学ぶための良い教材となった。アイヌ文化の講義や現地案内を懇切丁寧にしていただいた大野徹人氏（アポイ岳ユネスコ世界ジオパーク）に厚くお礼申し上げたい。各地から紹介された事例からは、記録を残すことの重要性や伝承者養成の難しさ、伝える工夫の必要性などが参加者に伝わったと思う。無形の文化財が、ジオパークへ導入され、自然と人々との関係の来し方や行く末を考える良い題材になっていくことを願う。

（竹之内）



冬島の穴岩で（講師の大野氏）



グループ討議のようす



自然災害とユニバーサルデザイン ～すべての人が心地よく過ごせるジオパークを目指して～

企画・運営

企画 UDWG（ユニバーサルデザインワーキンググループ）

コーディネーター 松原典孝（兵庫県立大学）、西島昭治（霧島ジオパーク・ユニバーサルデザインフォーラム）、丸橋暁（ジオゆに）、山本浩之（ジオゆに）、坂之上浩幸（霧島ジオパーク）

概要

美しい風景や地域性を育む地球の活動は、時には人に対し地震や津波、火山噴火、斜面災害などの形で様々なリスクをもたらす。社会には健常者から障がい者、お年寄りから子供、外国人と多様な人が、住人、訪問者など多様な立場で存在するため、地球活動による多様なリスクへの対応は決して単純ではない。自然現象に対する知識レベルの差も、自然災害への対応を困難にしている。一方で、人は多様な地球活動と生き続けることで、多様な「地球と共生する知恵や工夫」を築き上げてきた。それを全人類で共有することは、持続可能な人と地球の共生につながる。

本分科会では、多様な人が地球と共生し続けるために自然災害とどう向き合っていくべきか、ユニバーサルデザインの観点からフィールドワークやワークショップを通じて議論するとともに、各ジオパークで取り組んでいる、様々なリスクを軽減する手法や経験を共有した。

内容

【10月4日～5日】

洞爺湖有珠山UGGpプレ巡検「減災文化と火山の恵み～秋の有珠山満喫ツアー～」

【10月6日（土）】

14:00～14:10 趣旨説明

14:10～14:30 座学「ジオパークにおけるユニバーサルデザイン、洞爺湖有珠山プレツアー概要報告」：松原典孝

14:30～16:00 ワークショップ（途中、コーヒープレイクあり）

【10月7日（日）】

9:30～12:00 前日に引き続きワークショップ
（途中、コーヒープレイクあり）

12:00～12:30 昼食（分科会会場でお弁当）

プレ巡検では、本分科会コーディネーター及び参加者の一部が「減災文化と火山の恵み～秋の有珠山満喫ツアー～」に参加し、多様な人を前にした時、各種リスクに対してどう対応できるのか、自然現象を学ぶ際どう学びの場を与えられるのか等について現場で議論を行った。特に、有珠山2000年噴火の際、避難所生活をしたガイドさんの実体験より、多様な人に対し、どう接すればよいか、何ができるのか等について理解を深めた。昭和新山では、補助装置を増設した車椅子を用いて、車椅子目線の見え方や、フィールドでの対応等について議論した。

座学では、過去の大会の議論を振り返り、ジオパークにおいてなぜユニバーサルデザインに取り組むべきなのか等について議論したほか、多様な人がどうすれば地球の多様な現象と持続的に生き続けられるか等について、国内外の取り組みやプレジオツアーを例に、知識・経験を共有した。

ワークショップでは、「火山災害」「地震災害」「斜面災害」等を想定し、「住む人や受け入れる人の視点」「訪れる人の視点」に着目して、自然現象発生の際に「多様な人」に対して自分たちやジオパークが何をするのか、何ができるのかを議論した。

まとめ

参加者の多くは「ユニバーサルデザイン目線での防災・減災」のような議論を経験していなかったが、様々な現象や多様な人を想定することで、より具体的に議論を進めることができた。ワークショップの中からは、「多様な人が存在することを認識しなければならない」「まず教育が重要。どのような現象が起こるのか、多様な人がそれぞれ学ばなければならない」「災害時、様々な人が様々な状況に陥る。それに対し、できる人ができることをすることで様々な課題を克服できる」「情報収集や理解にも差がある」「多様な人同士でコミュニケーションを取り続けることが重要である」等の意見が挙げられた。最後に、時に災害につながる多様な地球活動と共生するため、ユニバーサルデザインの考え方を生かし、人が多様であることを認識し、コミュニケーションに努め、的確な情報を把握し、共有していくことを参加者間で合意した。

企画運営者の 総括・感想

過去2回の全国大会で実施した「ジオパークにおけるユニバーサルデザイン」分科会だったが、今回は切り口を「自然災害とユニバーサルデザイン」に変え議論した。答えが一つではない難しいテーマではあったが、火山活動や地震活動、斜面災害等様々な自然現象を背景に持つ様々なジオパークから参加者が集まった結果、多様な視点で意見を交わすことができた。また、そもそも地球活動がもたらす諸現象は多様であり、そこで生き続けてきた人の経験と知識もまた多様であることを認識することにもつながった。日々の活動の中で多様性に気付く機会は決して多くない。今後とも各地で得られた経験をより多くの人と共有し、人類の知識を増やしていくことが求められる。

(松原)



Discussion with Prof. Nickolas ZOUROS ～坂下町長によるミニ巡検～

企画・運営 企画・運営 日本ジオサービス株式会社
コーディネーター 目代邦康

概要

ジオパークの活動の質を向上させるためには、リーダーが高い目標を持ち活動を牽引していく必要がある。そのために、本分科会ではGlobal Geopark Network (GGN) Presidentのニコラス・ゾウロス（エーゲ大学）教授と意見交換をし、ジオパークの基本理念を深く理解する。そうした議論を通じて、ジオパークにおけるリーダーの役割やマネジメントのあり方について考える。

ニコラス・ゾウロス教授の他、GGN individual memberであり、ユネスコ世界ジオパークの中田節也、渡辺真人、柚洞一央各氏も登壇し、参加者とともに議論をすすめる。

内容

10月6日（土）

14:00～14:35 ニコラス・ゾウロス教授と質疑応答

14:35～14:50 グループワーク（質問内容についての検討）

14:50～16:00 ニコラス・ゾウロス教授と質疑応答

10月7日（日）

9:30～12:00 坂下様似町長によるミニ巡検

まとめ

開会式に続いて行われたニコラス・ゾウロス教授（エーゲ大学）の基調講演「ジオパークの魂－世界ジオパークネットワークの活動」では、質疑応答の時間が十分取れなかったため、この分科会の時間を使って、各ジオパークの協議会会長や事務局長らがゾウロス教授に質問するようにした（写真1、2）。

最初に渡辺真人氏や柚洞一央氏が口火を切って質問をしたが、その後、続かなかったため、一度中断し、グループワークを行い、質問内容を検討した。その後、グループごとに質問し、ゾウロス教授との質疑応答をすすめ、ジオパークに関しての理解を深めた。

企画運営者の 総括・感想

地質遺産の保全や持続可能な開発など、ジオパークにおける諸々の活動の質の向上のためには様々な人とのコミュニケーションが必要である。今回のニコラス・ゾウロス教授との議論の時間は、参加者のジオパークについての認識を向上させるための場として企画された。しかしながら、企画運営者が想定していたほどは、活発な議論とはならなかった。それは、本分科会の目的である、ジオパークの活動を牽引していくリーダーが、ゾウロス教授と議論し、今まで以上にジオパーク活動についての理解を深めるということが、参加者に十分に伝えきれなかったことがある。また、日本の各ジオパークのリーダーの多くがジオパークの質の向上についてゾウロス教授と議論をしようという意識が希薄であったこともあるだろう。本分科会の参加者から出た質問の多くは、自らが関わっている地域についての質問が多く、グローバルな視点での質問やジオパーク活動の質を向上させるための建設的な意見などは出てこなかった。日本の多くのジオパークの運営方式が、推進協議会方式をとっており、リーダーが首長となっていることが多い。首長はもちろんジオパーク専従ではなく、地域の様々な問題解決に対して仕事をしなければならない。そのため、地域のためのジオパークの活用ということは考えられても、地域のジオパークの活動によってどう世界に貢献するのかということを考えるのは職責上難しいだろう。そうした背景があるため、ゾウロス教授との議論の場ができたとしても、地域で抱えている問題の吐露が続くということになってしまったと思われる。今回の質疑応答の中でジオパークの運営に関して「日本型」という言葉が何度か出てきた。「日本型」とはまさしく上述の運営体制のことであり、本分科会でその限界が図らずも認識されることとなった。とはいえ、この「日本型」には約10年の蓄積があり、その良い点もある。今後は、様々な世界のジオパーク関係者とのコミュニケーションを通じて、世界から学び、そして日本から情報発信するという相互協力関係を作り出していかなければならないだろう。

（目代）



ニコラス・ゾウロス教授（写真中央）



坂下様似町長によるミニ巡検

本大会の実行委員長である坂下町長自らがガイドを務めたアポイ岳ユネスコ世界ジオパークを巡る「ミニ巡検」では、親子岩やソビラ岩の景勝地、アイヌ民族の伝統家屋「チセ」、観光拠点である観光案内所、えりも漁協様似支所、アポイ岳ジオパークビジターセンターなどが、それらにまつわるエピソードを交えながら紹介された。アイヌ民族が守り続ける伝統文化や等澗院の興りなどの歴史的なこと、海岸に奇岩が立ち並ぶ地質的な理由、漁業や軽種馬など様似町の特色となっている産業に関すること、今後の町づくりに関する解説に参加者は熱心に耳を傾けていた。

また見学地の一つ、えりも漁業協同組合冬島支所では、支所長から日高昆布の等級による出荷先、出荷額の違い、根昆布のおいしい食べ方・使い方などについて説明があった。本州からの参加者からは実際に出荷予定の昆布を間近に見、手に取る体験は貴重であったとの感想が寄せられた。ミニ巡検は限られた時間内で駆け足となったが、様似町の見どころを網羅する行程に参加者からはアポイ岳ユネスコ世界ジオパークの魅力の一端が理解できた、町長のガイドは聞く人を飽きさせなかったと好評の声があがっていた。



SDGsから考えるジオパークと 持続可能な社会

企画・運営

黒井 理恵（株式会社DKdo、なにいろ工房）

コーディネーター

溝渕 清彦（環境省北海道環境パートナーシップオフィス、北海道地方ESD活動支援センター）

概要

SDGs（持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals）は2015年に国連加盟193か国が決定した、2030年の達成を目指す国際的な目標である。ユネスコのプログラムであるジオパーク活動においても、持続可能な社会づくりの文脈から、SDGs達成への貢献が期待されている。しかし一般社会においてSDGsの認知度は高いとはいえず、また、目標そのものはグローバルな視点で設定されているため、身近なものとして捉えにくい。このためSDGsについては、さらなる周知を行うとともに、地域の活動にふりかえて理解し、活用していくことが可能になるよう、対話の機会を設けていく必要がある。

そこで分科会8では、SDGsの基礎的な知識を共有するとともに、SDGsが志向する環境課題と経済・社会課題の同時解決の重要性や、ローカルとグローバルの動きの連動性について気づき、次代のジオパーク活動につなげていく場づくりをすることを目的とした。主な活動内容としては、一般社団法人イマココラボ（東京都）が開発したカードゲーム「2030 SDGs」を体験し、そのふりかえりをとおして、ジオパーク活動とSDGsがどのようにに関わりを持つのか、持続可能な社会づくりにSDGsをどのように活用できるかというテーマに関して意見交換を行うものとした。

※カードゲーム「2030 SDGs」 <https://imacocollabo.or.jp/games/2030sdgs/>

（一般社団法人イマココラボ）

内容

情報提供・カードゲーム進行

黒井 理恵（株式会社DKdo、なにいろ工房）

溝渕 清彦（環境省北海道環境パートナーシップオフィス、北海道地方ESD活動支援センター）

10月6日(土)

14:00～14:40 分科会趣旨説明、カードゲーム「2030 SDGs」導入

14:40～15:30 カードゲーム「2030 SDGs」実施

15:30～16:00 カードゲーム「2030 SDGs」ふりかえり

10月7日(日)

9:30～10:00 SDGsに関する補足説明、1日目のふりかえり

10:00～10:30 グループでの対話と全体共有

テーマ：あなた自身が豊かな地域・社会づくりの担い手であるならば、あなたはこれから何をしていきますか

10:30～11:20 グループでの対話と全体共有

テーマ：「2060年、ジオパークがあつてよかったね！」と言われていました。どうしてでしょうか

11:20～12:00 ジオパーク活動とSDGsの掛け合わせによるアイデア発想

ふりかえり

テーマ：ジオパーク活動を進めるにあたって、「私たちはこれから、こういう視点を大切にしていきたい／こういった取り組みをしていきたい」と思いますか

まとめ

1日目に実施したカードゲーム「2030 SDGs」は、世界における環境・経済・社会の関わりや、個人の動きと世界の動きがつながっていることを模擬的に体感できるゲーム。分科会では参加者が3人1組で、チームごとに割り当てられた目標を達成するべく、限られた資金と時間を用いて、様々なプロジェクトの実行（実行によりチームの保有する資源や世界の状況が変化する）に知恵を絞った。

ゲームの局面は前半と後半に分かれており、その中間で、世界の状況が参加者全員と共有される。この状況は環境・経済・社会のパラメーターで表現されており、今回の分科会では経済が突出して好調、環境・社会が危機的状況にあるというものだった。そこから社会、そして環境の状況が飛躍的に改善されていったが、最後のふりかえりでは、中間発表によって状況を認識した参加者の中に、自分のチームの目標達成だけではなく「社会全体をよくしようという考え」が生まれ、周囲との交流が進められ、柔軟な交渉・連携が行われるようになった。ということが確認された。「可視化による状況の把握・共有」や「柔軟なコーディネート」が重要であるという気づきが、各チームから聞かれた。

2日目には、SDGsについての補足説明がなされた後、SDGsのバックキャスティングの（未来から現在に引き寄せて考える）考え方を用いて、ジオパーク活動が2060年の地域に貢献している姿を想像。「防災や観光の強みを生かし（ジオパーク活動に取り組んでいる）地域が残っている」「地域の資源の保全により、文化が守られている」などの意見が共感を集めていた。次いで、そのビジョンを現実のものとしていくために、ジオパーク活動の「保全」「教育」「観光」とSDGsの17のゴールを掛け合わせるアイデア発想のワークを実施し、最後に全体を通じてのふりかえりを実施。「次世代に継承していく視点」や「世界の問題に目を向ける視点」など、より広い時間軸・空間軸で活動を捉えていくことや、多様な主体とつながることの重要性が確認され、その趣旨が分科会からの宣言に盛り込まれた。

企画運営者の 総括・感想

カードゲーム「2030 SDGs」については、ゲーム中の各参加者の動き方に「その人の普段の動き方が表れる」とのことであったが、「手詰まりになり、ただ座っていた」「自分の目標達成以外に何もしなかった」等のふりかえりもあった。また、会場全体に声かけをして世界の状況を変えていこうとする参加者もほぼいなかったように見受けられた。

最後のふりかえりで「地域との協働・ネットワーク」をキーワードに掲げたグループも多かったことから、SDGsに関する学びと気づきを通して、「地域との協働・ネットワーク」を強みとしていく必要性が、あらためて意識化されたのではないと思われる。

また一方で、カードゲーム「2030 SDGs」を含めたこうした対話の設計が、持続可能な社会づくり、ひいてはジオパーク活動に対する認識の更新に有効であろうことも推測できた。多様な主体とともに持続可能な未来を考え、実践していくジオパーク活動に期待したい。

（溝渕）



オーラルセッション概要 (様似図書館視聴覚ホール)



10月6日(土) 14:00～16:00 10月7日(日) 9:30～12:00

今大会では、発表者が能動的に自身のジオパーク活動を参加者と共有できる機会を増やすとともに、参加者が新しい情報に出会い、自身のジオパーク活動へ応用・実践できる機会を増やすためにオーラルセッション（事例発表セッション）を開催した。

No.	日付	時間	コーディネーター		団体名	発表者	標題
1	1日目 10月6日 (土)	14:00～ 14:15	廣瀬 亘 (道総研)	殿谷 梓 (徳島)	防災科研 ・糸魚川	松原 誠 竹之内 耕 西澤あずさ 青井 真	「防災科研 地震だねっと!」の開設
2		14:15～ 14:30			阿蘇	池辺伸一郎 兒玉 夏子 宮北 志野 高森 秀平 石松 昭信 鍵山 恒臣 鳥井 真之 鶴田 直之	地震や噴火等による自然災害の防災 教育等への活用
3		14:30～ 14:45			山陰 (多鯉ヶ池)	飼牛 明	地域住民が行うジオパークの未来づ くり
4		14:45～ 15:00			室戸	小笠原 翼	ジオパークが提供する「集まりの場」 ー地域住民の新たな出会いの場ー
		コーヒープレイク (15:00～15:15)					
5		15:15～ 15:30	横山 光 (北翔大)	郡山鈴夏 (山陰)	立山	山岡 勇太 今堀 喜一 志村 幸光	立山黒部ジオパークにおける地元メ ディアとの連携事例
6		15:30～ 15:45			天草	鵜飼 宏明	見どころの保全と活用
7		15:45～ 16:00			糸魚川	竹之内 耕 宮島 宏 茨木 洋介 小河原孝彦	フォッサマグナパーク (糸魚川ー静岡 構造線の断層見学公園) のリニューア ル



No.	日付	時間	コーディネーター		団体名	発表者	標題
8	2日目 10月7日 (日)	9:30～ 9:45	大野希一 (島原)	片山美雪 (下仁田)	隠岐	長田 樹	学習指導要領×ジオパーク＝隠岐スタイルの学校教育
9		9:45～ 10:00			室戸	堺 喜久美	室戸ジオパークガイド団体の変化と多様性
10		10:00～ 10:15			豊後大野	芝崎 聡通	地域資源を活用した新たな「滞在型周遊観光ツアー」の展開
11		10:15～ 10:30			浅間山・三陸	山田 雅仁 杉本 伸一	日本ジオパーク委員会による現地審査報告書から見た審査体制の特徴
12		10:30～ 10:45			山陰海岸	先山 徹	北前船によって流通した石材の研究とジオパーク間の連携の可能性
		コーヒーブレイク (10:45～11:00)					
13		11:00～ 11:15	鵜飼宏明 (天草)	新名阿津子 (伊豆)	島原	森本 拓	土石流被災家屋保存公園におけるジオガイドのガイド有料化への取り組み
14		11:15～ 11:30			室戸	千頭 利智	室戸の「ジオパークホテル!?」構想
15		11:30～ 11:45			豊後大野	渡部 順子	「大分の野菜畑ぶんどおおの」・ジオパークの恵みを食で伝えることの意義
16		11:45～ 12:00			栗駒	佐藤 充	栗駒山麓ジオパーク特産商品「栗駒山麓のめぐみ」の取り組みを通じた持続可能な地域振興の試み



プレジオツアー概要 10月3日(水)～10月5日(金)

洞爺湖有珠山

減災文化と火山の恵み ～秋の有珠山満喫ツアー～

参加者数
19名

行程▶10/4(木) 西山山麓火口散策路(有珠山2000年噴火・ジオサイトの保全)→豊浦町インディアン水車公園(鮭の生態・ジオの恵み紹介)→天然豊浦温泉しおさい(昼食)→文政火砕流の碑(山体崩壊・アイヌ文化)→道の駅だて歴史の杜(防災施設紹介)→有珠山ロープウェイ(1977噴火・昭和新山・観光業とのつながり)→1977年火山遺構公園(1977年噴火・避難誘導事例・ジオサイト保全)→2000年噴火避難所体験の講話(教育活動)→終了

10/5(金) 洞爺湖有珠山ジオパーク→道央自動車道経由(有珠山・倶多楽火山・樽前火山・北海道胆振東部地震・泥火山)→様似町

ガイド/講話▶江川 理恵、後藤 信二、荒町 美紀(洞爺湖有珠火山マイスター)

横山 光(洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会、北翔大学准教授)

内容と結果▶洞爺湖有珠山ジオパークのテーマである「活火山との共生」と、ジオパークが取り組むべき減災活動について、散策路やジオサイトの見学を通し、問いかけを行った。洞爺湖有珠火山マイスターがガイドを担当し、普段の減災教育活動の一端を伝えた。地質災害に関わる地域からの参加が多く、災害遺構の保全方法や減災教育に関する具体的な意見交換がなされた。参加者からは火山マイスターの活動を評価する声と、移動中に車窓からの写真を撮影したかった、露頭や石に触れる時間が欲しかったという要望があった。



白 滝

KON-SAI(昆(虫)祭・根菜) ジオツアー in 丸瀬布

参加者数
11名

ガイド名▶矢木 優(えんがあるジオ倶楽部)

佐藤正美(丸瀬布昆虫同好会)

1日目▶白滝ジオパーク交流センター⇒ジャガイモ選別体験⇒ホテルサンシャイン

2日目▶インカルシぶら歩き⇒白滝ジオパーク交流センター⇒黒曜石原産地直下の河川堆積物⇒埋蔵文化財センター(石器作り体験&展示見学)⇒大平高原⇒作った石器でBBQ⇒山彦の滝⇒いこいの森の風穴と植生⇒森林鉄道雨宮21号乗車体験⇒丸瀬布昆虫生態館

3日目▶帯広百年記念館

内容と結果▶催行中止となった黒曜石原産地ツアーに代り、河川での黒曜石礫の観察、石器作り体験、石器の使用体験を組み込んだ。参加者には満足いただけた一方で、プログラム過多となり時間に余裕がなかった。畑から掘りあげられるジャガイモと岩石をトラクター上で選別する体験が土地の成り立ちと大地の恵みが分かり良かったとの意見が多かった。その他、「人が暖かい」のほか「ガイドは参加者に考えさせる工夫を」との意見があった。



さあ行こう！一億年時間旅行へ！

参加者数
29名

行程▶10月4日 9:15 新千歳空港集合 → 10:30 岩見沢駅集合 → 11:30 三笠市立博物館見学 → 12:20 昼食 → 13:00 ジオツアー（野外博物館・旧奔別炭鉱）→ 15:40 講演 → 16:45 美祢市立豊田前中学校生徒発表 → 17:00 意見交換会 → 19:00 懇親会

10月5日 8:20 ホテル出発 → 8:50 ジオツアー（桂沢ダム・原石山）→ 10:45 高校生レストラン見学 → 11:10 山崎ワイナリー見学 → 12:20意見交換会 → 13:20 昼食 → 13:50 出発 → 17:30 様似町到着

ガイド▶下村 圭・上口 壮太・相場 大佑（三笠ジオパーク）／山崎 太地（山崎ワイナリー）

内容と結果▶教育分科会と連動した取り組みとして、ジオパークにおける「教育」には様々な切り口があることを多様な参加者との対話や意見交換を通じて気づき、ジオパーク活動における「教育」について広い視野から考え、行動に結び付けることができるようになることを目的に、教育的取組み＋ツアーの形式で実施した。

結果として、「教育」は多様で多彩な取組みであり地域ごとでも異なる。そのため、様々な地域の取組み事例を知り、自地域との比較など行い、情報を地域内で共有を図り創意工夫し続けることが重要である。また、地域内外における様々な利害関係者との連携強化や横断的な取組みの重要性について改めて認識することができた。

美祢市立豊田前中学校発表の様子



文化体験(北海盆踊り)の様子



幾春別かるたの様子

ジオツアーの様子



とかち鹿追

プロガイドと歩く「風穴の森」トレッキングツアー

参加者数
10名

ガイド▶松本宏樹（然別湖ネイチャーセンター）／阿久澤小夜里（ボレアルフォレスト）

行程▶10月3日(水)～10月5日(金) 2泊3日

10月3日 帯広空港・駅集合、ビジターセンター紹介、交流会

10月4日 リバーウォッチング、風穴トレッキング、ミーティング、ナイトウォッチング

10月5日 長芋掘り体験、様似町へ移動

内容▶とかち鹿追ジオパークの特長である、火山と寒冷な気候がつくった風穴地帯や然別湖（しかりべつこ）を30年近い経験を持つプロガイドと一緒に、楽しみながら安全管理について学ぶツアー。リバーウォッチングでは、世界でここだけに生息するミヤベイワナの観察を通じて、川の渡渉法やお客様への声掛け・目配りについて、風穴トレッキングでは、風穴やナキウサギの観察を通じてガイドの立ち位置や安全ラインの見極めについて、鹿追のプロガイドの経験を紹介した。

結果▶参加者は定員を割る10名となったが、晴天にも恵まれ、少人数ゆえに濃い時間を共有することができた。今回は、実際の現場を共有した上で、安全管理について協議することができ、具体的かつ現場に即した深い議論ができた。



ポストジオツアー概要 10月7日(日)～10月8日(月)



大会2日目終了後から大会3日目にかけて、アポイ岳世界ユネスコジオパークとその周辺地域をまわるポストツアー（7コース）を開催した。アポイ岳エリア内5コース（アポイ登山、幌満峡、歴史、鮭漁、アイヌ文化コース）、浦河町～新ひだか町方面1コース（馬産地コース）、えりも町～十勝方面1コースである。アポイ登山以外はバスツアーである。参加者数は160名であった。

「アポイ岳登山」、「歴史」、「鮭漁」をテーマとしたコースは、これまでアポイ岳ユネスコ世界ジオパークで行ってきた定番コースであり、普段の活動やこれまで催行したコースをアレンジした形で企画した。「幌満峡」コースでは普段行っていることを専門家向けツアーとしてアレンジした。「アイヌ文化」コースは、普段行っていることをツアーとしてアレンジした。「馬産地日高」および「えりも町と日高山脈」コースは、様似町外コースであり、新たな試みであった。

準備については、大会前年10月からガイドとともに検討部会を行った。近隣の高校生たちからもカフェ形式でアイデアを出してもらった。当日まで勉強会、打ち合わせ、現地視察、リハーサルを何度も行った。ガイドとともにフリップや小道具などの説明用道具作成、岩石標本作成、参加者配布地図や資料作成、台本（説明骨子）作成を行った。大会終了後の11月にガイドとスタッフ30名で報告会を行った。提供したい情報、見てもらいたい場所が多過ぎ、時間内では収まりきれないことが課題としてあげられたが、多くの町民がふるさとの魅力を自ら考え、来訪者へ伝えることができた事は今後のジオパーク運営をするうえで、大きな財産となった。

以下、各コースごとに参加者アンケートおよび、大会終了後の報告会から出てきたことをまとめる。アンケートは128名から回収し、回収率は8割であった。アンケートから、ツアー全体の満足度については、「満足」60%以上、「満足とやや満足の合計」93%以上であった。

1 かんらん岩と高山植物の共演！アポイ岳登山

参加者	29名	
1日目	ビジターセンター➡アポイ岳の花➡スライドショー➡アポイ山荘	
2日目	アポイ岳➡アポイ山荘➡新千歳空港	
ガイド	信太 富夫／則次 繁／谷村 利幸／中村 秀則／田中 正人	
アンケートと報告会から	理解が深まったことは「どの項目も」であった。印象的だったことは「登山（26%）」である。各設問で満足をつけた割合が高いのは「ガイドの説明（67%）、アポイ山荘（63%）、アポイ岳登山（63%）」である。参加者全員が登頂し、参加者ニーズに合わせたガイドの説明が好評であった。課題は時間制約である。	



2

地球内部を覗いてみよう！Ho浪漫（幌満）峡

参加者	30名	
1日目	ビジターセンター→アポイ岳の花スライドショー→アポイ山荘	
2日目	アポイ山荘→ゴヨウマツ記念碑→稲荷神社前→幌満ダム →幌満コミセン・ジオラボ→角閃岩の褶曲→アポイ山荘 →新千歳空港	
ガイド	島田 哲也／阿部 雄一／磯野 清美	
アンケートと 報告会から	理解が深まったことは「かんらん岩の特徴（36%）」。印象的だったことは「かんらん岩（31%）」。 各設問で満足をつけた割合が高いのは「幌満自治会との交流（92%）、幌満川の岩石観察（67%）」 である。「時間配分」への評価は高く、課題は「雨天時の対応」。石切りや石磨き等の体験もした かったという要望があった。	



3

東蝦夷地を歴史探訪！ブラリまち歩き

参加者	27名
1日目	中央公民館→AERU
2日目	AERU→親子岩→エンルム岬→様似郷土館→等澍院→中央公民館→幌満コミセン・ジオラボ →アポイ山荘→新千歳空港
ガイド	水野 洋一／小林 弥生
アンケートと 報告会から	理解が深まったことは「かんらん岩の特徴（30%）、様似の歴史と地形地質の関係（29%）」で あった。印象的だったことは「等澍院見学（20%）」である。各設問で満足をつけた割合が高い のは「幌満自治会との交流（85%）、ガイドの説明（84%）」である。「幌満自治会の歓迎」の評 価が高く、課題は「雨天時の対応および時間超過」である。



4

秋サケ三昧！漁師と浜のかあさんの暮らし体験

参加者	10名	
1日目	ビジターセンター→アポイ岳の花スライドショー→プラザみすず	
2日目	プラザみすず→乗船→港町生活館→丸富水産→西町生活館 →エンルム岬→新千歳空港	
ガイド	川崎 正春／佐々木 敏	
アンケートと 報告会から	理解が深まったことは「アポイ岳のなりたち（37%）」であった。印象的だったことは「鮭さばき体験（19%）、地元の方とのふれあい（19%）」である。各設問で満足をつけた割合が高いのは「浜のかあさん料理（90%）、鮭さばき&いくらしょうゆ漬け体験（90%）」である。良かったことは「浜のかあさんとの交流・おもてなし・体験（乗船、鮭さばき、いくらしょうゆ漬け）、船が出たこと」。小道具を用いた説明はやりやすかった。課題は宿泊施設である。	



5

アイヌ語・アイヌ伝説からジオを学ぶ

参加者	27名	
1日目	中央公民館→AERU	
2日目	AERU→親子岩→観音山→エンルム岬→冬島の穴岩→チセ →岡田生活館→新千歳空港	
ガイド	大野 徹人／鎌田 康代	
アンケートと 報告会から	理解が深まったことは「アイヌ語地名と地形地質の関係 (35%)、アイヌ文化 (34%)」であった。印象的だったことは「アイヌ文化体験 (48%)」である。各設問で満足をつけた割合が高いのは「昼食アイヌ料理 (75%)、アイヌ文化体験 (69%)」である。和踊り、アイヌ衣装の着付け体験、不順な天候なりに様似を見てもらえたこと、事前に準備が整えられていた点が良かったこととして上げられた一方で、詰め込みすぎの行程、バス運転手との連携が反省点であった。	



6

馬産地ひだかのルーツを探る！日高優駿街道

参加者	24名	
1日目	中央公民館→AERU	
2日目	AERU→JRA日高育成牧場→馬事資料館→三石道の駅 →真歌の丘→あま屋→龍雲閣→新千歳空港	
ガイド	武内 秀仁／井坂 美保子／加藤 みゆき	
アンケートと 報告会から	理解が深まったことは「馬産地日高のルーツと地形地質の関係（56%）」であった。印象的だったことは「馬産地日高のルーツがわかった（24%）、JRA（20%）」である。各設問で満足をつけた割合が高いのは「ガイドの説明（73%）、JRA（70%）」である。参加者のこのコースの選択理由はさまざまであったが、良かったことは「ジオと馬の関係がわかったこと、おもてなし（お土産、ビンゴ、クイズ景品、蹄鉄）、ジオツアーらしいガイドだったと評価があったこと」。課題は詰め込みすぎ、集合写真が撮れなかったことである。	



7

どんだけ～強風体験！えりも岬とんがりロード

参加者	13名	
1日目	ビジターセンター→田中旅館	
2日目	田中旅館→えりも町郷土資料館→歌別川→えりも岬→守人 →ルーラン岩礁→大樹町道の駅→とかち帯広空港	
ガイド	中岡 俊子／平山 繁雄	
アンケートと 報告会から	理解が深まったことは「えりも岬のなりたち（36%）、日高山脈のなりたち（36%）」であった。印象的だったことは「えりも岬（17%）」である。各設問で満足をつけた割合が高いのは「えりも岬（92%）、昼食会場の「 ^{まぶりっ} 守人」（75%）」である。時間配分、少人数での交流会、おみやげなどのおもてなしが喜ばれた。課題は説明しきれなかったこと。	



第9回日本ジオパーク全国大会・アポイ岳(北海道様似町)大会宣言



私たち、ジオパークに関わる者674名は、2018年10月6日、7日と、ここアポイ岳ユネスコ世界ジオパークに集い、これからのジオパーク活動の発展のために、これまでの活動を振り返り、その知識や経験を共有した。そして、より良い活動をつくり出すため、交流し、新しい知識を吸収し、意見交換をし、議論を重ねた。こうした2018日本ジオパーク全国大会での経験を通して私たちは、多くのことを学び、多くの気づきをを得た。この経験を踏まえ、ジオパーク活動のさらなる発展のため、私たちは、以下をここに宣言する。

一、私たちは地球に生きる一員として世界に目を向け、地域資源の保全・活用、次世代への継承を行う。地域を基盤にしつつ、世界と未来の視点を大切にしながら、次世代を含む様々な人・組織と協働し、枠組みを乗り越えて活動していく。

一、伝承や舞踊といった無形の文化財は、人と自然と大地との関係性を示すものであり、ジオパークにおいて重要な遺産である。先住民族、地域住民の意思を尊重したうえで、保全と活用をすすめていく。

一、ジオパーク活動は、地域資源を活用し、郷土愛の醸成や多様な地域活動等に連携させることができる。今後はよりいっそう地域の教育活動に寄り添い、広く協働・連携を進め、深く地域を学ぶためのスパイス・ツールとしてジオパークを活用していく。

一、これから起こりうる数多くの自然災害に直面した際に、存在価値が認められるようなジオパークづくりにつとめる。

一、自然（生態）遺産や文化遺産は、現在の私たちの暮らしと地形・地質とのつながりを伝えるものであり、その保全と活用をより進めることで、ジオパークを社会に広めていく。

一、わたしたちは、時に災害につながる多様な地球活動と共生するため、ユニバーサルデザインの考え方を生かし、人が多様であることを認識し、コミュニケーションに努め、的確な情報を把握し、共有していく。

一、ジオパークは、安全管理のなされたジオツアーを提供する。ツアーを担うガイドは、ジオパークのネットワークを活用して交流をすすめ、その技術の向上を計る。

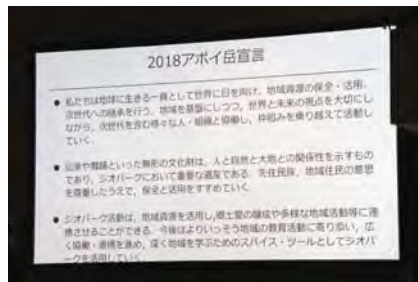
一、これからの10年は、ジオパーク自身が、地域に対して、あるいは世界に対して何ができるのかを考える。

2018年10月7日

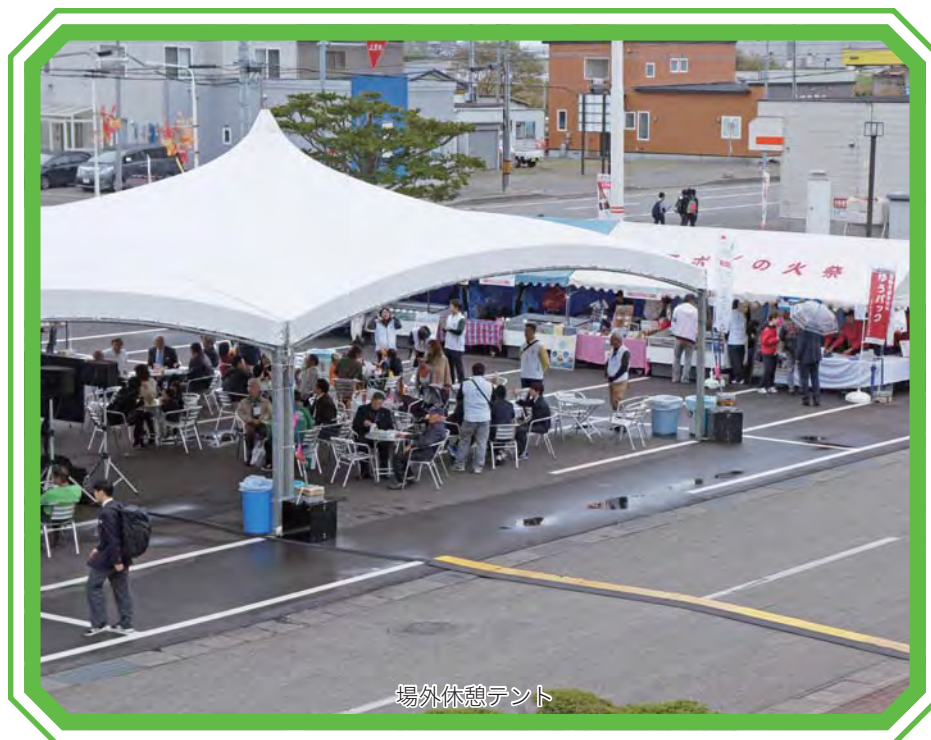
第9回日本ジオパーク全国大会アポイ岳（北海道様似町）

大会実行委員長

様似町長 坂 下 一 幸



会場周辺



場外休憩テント



床地図



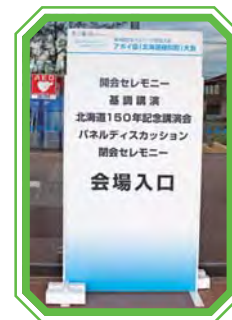
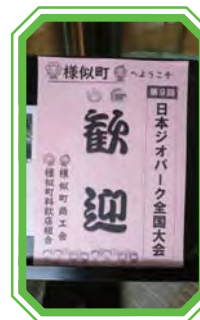
タッチパネル式ジオパークマップ



北海道胆振東部地震災害義援金募金



新千歳空港ウェルカムスクリーン



会場周辺案内板

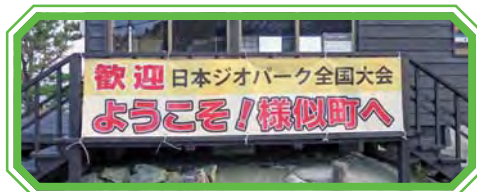


帯広空港ロビー歓迎サイン

会場周辺



民族共生象徴空間PRコーナー



場外休憩テント内



新規認定希望地域ポスター



ポスターセッションブース案内板



会場案内マップ

Web掲載版につき、新聞記事削除

参加者数



No.	ブロック名	地域名	参加者数	ブロック計	正・準
1	北海道	アポイ岳※	10	131	正
2		洞爺湖有珠山	20		正
3		白滝	20		正
4		三笠	10		正
5		とかち鹿追	10		正
6		十勝岳	20		準
7		上川中部	8		準
		その他	33		
8	東北	磐梯山	7	97	正
9		男鹿半島・大湯	11		正
10		八峰白神	6		正
11		ゆざわ	15		正
12		三陸	21		正
13		栗駒山麓	5		正
14		下北	11		正
15		鳥海山・飛島	16		正
16		蔵王	1	準	
17		月山	4	準	
		その他	0		
18	関東	伊豆大島	5	83	正
19		下仁田	5		正
20		秩父	4		正
21		箱根	11		正
22		銚子	7		正
23		筑波山地域	16		正
24		浅間山北麓	15		正
25		茨城県北	5		準
26		古関東深海盆	0		準
27		三宅島	0		準
28		那須烏山	6		準
		その他	9		
29	中部 甲信越	糸魚川	14	85	正
30		伊豆半島	7		正
31		南アルプス	4		正
32		恐竜渓谷ふくい勝山	3		正
33		白山手取川	8		正
34		佐渡	15		正
35		立山黒部	5		正
36		苗場山麓	6		正
37		飛騨山脈	5		準
38		東三河	3		準
39		中央アルプス	0		準
40		飛騨小坂	2	準	
		その他	13		
41	中四国 近畿	山陰海岸	25	114	正
42		室戸	10		正
43		隠岐	4		正
44		四国西予	10		正
45		南紀熊野	5		正
46		Mine秋吉台	16		正
47		島根半島・宍道湖中海	9		正
48		萩	12		正
49		土佐清水	13		準
50		三好市	6		準
			その他		4
51	九州	島原半島	10	69	正
52		阿蘇	4		正
53		霧島	6		正
54		おおいた姫島	4		正
55		おおいた豊後大野	13		正
56		桜島・錦江湾	5		正
57		天草	3		正
58		三島村・鬼界カルデラ	5		正
59		北九州	0		準
60		五島列島	4		準
			その他		15
	関係者	JGN・JGC・国機関	16	95	
		JGN海外招聘者	1		
		来賓・招聘者・実行委員	78		
	非登録 参加者	一般来場者	156	429	
		報道機関	10		
		運営協力者	263		
	合計		1,103		

※アポイ岳はガイド（大会参加登録者）の人数

		参加者	スタッフ
参加者数（延べ）合計		5,000	338
4日	プレジオツアー	65	45
5日	事前相談会・運営会議	253	44
6日	開会式・分科会1日目・交流会	2,487	117
7日	分科会2日目・北海道150年講演・パネルディスカッション	2,035	105
8日	ポストジオツアー	160	27

プレツアー		スタッフ	
①減災文化と火山の恵み～秋の有珠山満喫ツアー ～（洞爺湖有珠山）	18		7
②KON-SAI(昆(虫)祭・根菜) ジオツアーin丸瀬布(白滝)	11		19
③さぁ行こう！一億年時間旅行へ！（三笠）	18		12
④プロガイドと歩く「風穴の森」トレッキングツアー ～鹿追のガイドが歩んだ30年を参考に、ガイドの安全管理を考える～（とかち鹿追）	10		7

		参加者	スタッフ
JGN会議			
事前相談会（日本）	27		
事前相談会（世界）	16		
JGN運営会議	95		
懇親会	103		

開会セレモニー	720
---------	-----

		参加者	スタッフ
分科会等			
①ジオパークが担う普段の減災・防災活動って何？	70		
②人の暮らしとジオを考える	57		
③学びが生み出す地域の未来づくり	65		
④「備えあれば憂いなし!?」ガイドツアーのリスクマネジメント-リスクを味方につけるガイドのコツ-	65		
⑤無形文化財の伝承と活用をジオパークで考える～アイヌ文化を例に～	55		
⑥自然災害とユニバーサルデザイン～全ての人が心地よく過ごせるジオパークを目指して～	28		
⑦Discussion with Prof. Nickolaos ZOUROS・坂下様似町長によるミニ巡検	67		
⑧SDGsから考えるジオパークと持続可能な社会	47		
口頭発表セッション	70		
ポスターセッション	620		
7日のミニ巡検は45名で実施 口頭発表、ポスターセッションは聴講者も合わせた数			

		参加者	スタッフ
大交流会			
参加者	583		

北海道150年記念講演	250
ワークショップ	50

パネルディスカッション・閉会セレモニー	621
---------------------	-----

		参加者	スタッフ
ポストツアー			
①かんらん岩と高山植物の共演！アポイ岳登山	29		
②地球内部を覗いてみよう！H o！浪漫（幌満）峡	30		
③東蝦夷地を歴史探訪！ブラリまち歩き	27		
④秋サケ三昧！浜のかあさんの暮らし体験	10		
⑤アイヌ語・アイヌ伝説からジオを学ぶ	27		
⑥馬産地日高のルーツを探る！日高優駿街道	24		
⑦どんだけ～強風体験！えりも岬とんがりロード	13		

第9回日本ジオパーク全国大会・アポイ岳（北海道様似町）大会実行委員会名簿

役 職	氏 名	所 属	摘 要
名誉実行委員長	高 橋 はるみ	北海道知事	
実行委員長	坂 下 一 幸	様似町長	推 進 協 議 会 会 長
副実行委員長	佐々木 健 一	様似町教育委員会教育委員	同 会 副 会 長
副実行委員長	谷 村 利 幸	アポイ岳ファンクラブ会長	同 会 副 会 長
監 事	附 田 一 穂	冬島自治会長	同 会 監 事
監 事	久 野 真紀子	アポイ岳ファンクラブ副会長	同 会 監 事
委 員	工 藤 仁	様似町商工会会長	同 会 理 事
委 員	久 野 俊 昭	様似町観光協会会長	同 会 理 事
委 員	小 林 弥 生	様似町社会教育委員副委員長	同 会 理 事
委 員	木 下 行 宏	様似町副町長	同 会 会 員
委 員	坂 本 好 則	様似町議会議長	同 会 会 員
委 員	荒 木 輝 明	様似町教育委員会教育長	同 会 会 員
委 員	笹 島 秀 則	様似町郷土館運営審議会会長	同 会 会 員
委 員	深 堀 美 紀	様似中学校校長	同 会 会 員
委 員	山 村 健 史	様似小学校校長	同 会 会 員
委 員	江 谷 一 夫	ひだか東農協様似事業所所長	同 会 会 員
委 員	相 内 寛	日高中央漁協様似支所所長	同 会 会 員
委 員	北 村 和 也	えりも漁協冬島支所所長	同 会 会 員
委 員	盛 孝 雄	ひだか南森林組合専務理事	同 会 会 員
委 員	石 井 俊 英	様似町商工会事務局長	同 会 会 員
委 員	早 坂 節 子	様似町商工会女性部長	同 会 会 員
委 員	木 村 浩 二	日高信用金庫様似支店長	同 会 会 員
委 員	坪 正 利	様似町文化協会会長	同 会 会 員
委 員	岡 部 美 香	様似町女性団体連絡協議会会長	同 会 会 員
委 員	滝 川 浩 司	様似町青年団体協議会会長	同 会 会 員
委 員	砂子田 義 治	東平宇自治会長	同 会 会 員
委 員	佐々木 正	幌満自治会長	同 会 会 員
委 員	榎 本 信 促	新日本電工(株)日高工場長	同 会 会 員
委 員	横 見 実	東邦オリビン工業(株)代表取締役社長	同 会 会 員
委 員	菊 地 修 二	様似アイヌ協会会長	同 会 会 員
委 員	水 野 洋 一	アポイ岳ジオパーク認定ガイド代表	同 会 会 員
委 員	新井田 清 信	アポイ岳地質研究所所長	同 会 学 術 顧 問
委 員	池 田 尚 登	様似建設協会会長	
委 員	坂 下 正 代	様似町食育協議会会長	
委 員	外 山 紘	様似町交通安全指導員協議会会長	
委 員	熊 谷 力 ネ	様似民族文化保存会会長	
委 員	吉 瀬 献 策	浦河高等学校校長	
委 員	池 田 拓	浦河町長	
委 員	大 西 正 紀	えりも町長	
委 員	村 瀬 優	広尾町長	
委 員	真 屋 敏 春	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会会長	洞 爺 湖 町 長
委 員	佐々木 修 一	白滝ジオパーク推進協議会会長	遠 軽 町 長
委 員	西 城 賢 策	三笠ジオパーク推進協議会会長	三 笠 市 長
委 員	吉 田 弘 志	とかち鹿追ジオパーク推進協議会会長	鹿 追 町 長
委 員	浜 田 哲	十勝岳ジオパーク推進協議会会長	美 瑛 町 長
委 員	西 川 将 人	上川中部地域ジオパーク構想準備会会長 (現大雪山カムイミントラジオパーク構想推進協議会会長)	旭 川 市 長

オブザーバー	松 浦 英 則	北海道日高振興局長	
オブザーバー	岡 崎 健 一	札幌方面浦河警察署長	

顧 問	米 田 徹	日本ジオパークネットワーク理事長	糸 魚 川 市 長
顧 問	中 田 節 也	日本ジオパーク委員会委員長	東京大学名誉教授